

はゞ追付品も替可申なとゞ申候。此者參候て掃除の分は無  
殘所、座敷に塵一つ無之格別に罷成候。さて毎日拂曉より  
罷出候て無餘事奉公精出申候。右京進殿徒の者氣に違候て、  
外へ出被申候時、玄關前にて右の徒者供に罷出候處を、右  
の坊主に被申付成敗させられ候處に、目前にて隨分手際に  
打申候。其時即坐に束髮被申付、知行二百石被申付、河合又  
五郎と申、無程又加増にて家老に被致候處に、一兩年過候  
て意趣有之傍輩を討申候。喧嘩と申候て家中騒動いたし候  
處、又五郎門へ罷出、喧嘩有之候間其心得候へとて、方々し  
まりなど申付候風情にて、頓て立のき、向の松平宮内少輔殿  
池田三左衛門殿  
子相模守殿文 屋敷へかけ込申候。安藤殿より宮内殿へ斷度々  
に及候へ共、宮内殿御出し無之候。宮内殿は權現様御孫に  
て候故、其時分威勢も有之候て終に先づ其通にて事濟申候。  
扱宮内殿被召仕候て罷在候處に、又宮内殿にて人を討候  
て、此度は安藤治右衛門へかけ込申候。宮内殿より治右衛  
門へ被出候へとの儀に御座候處、治右衛門被申候は、成程  
此間人を討申者私方へかけ込罷在候。然共其元より被仰下  
候河合又五郎にては無之候。又五郎は先年同苗右京進方に

て人を討候て、其元へかけ込申由承候故、御斷申入候處、左  
様のものは不參由、達て被仰聞に付其通仕置候。然處に又  
五郎、此度其元よりはしり込申段は難心得存候。又五郎事  
は其元には居不申筈に御座候由返答に付、宮内殿以外の外立  
腹にて、治右衛門へおしこみ、理不盡にさがし可申よしに  
候故、家中一統に兵具致し罷在候。其段治右衛門方へも相  
聞候故一類中はせ集申候。公儀より御裁判も御難儀におよ  
び候處、先づ治右衛門事宮内殿相手に仕儀に候間、屋敷をば  
あけ候て谷中道灌塚の邊の寺へひらき可然由にて、治右衛  
門被又五郎を召連寺へ入申候。忍ばずの池のあたりは晝夜  
引もきらず治右衛門方へ、一類中其外別て申通候旗本中武  
具致しはせ集申に付、宮内殿方へは諸大名の内少もつゞき  
由緒の衆、引もきらず門前ひしとふさがり申、江戸中騒動  
に及候故、公儀よりなにかと御なだめも候得共、とかく治  
右衛門又五郎出し不申候。旗本中一つに罷成候て宮内殿と  
打果申覺悟に候故、跡へも先へも不參物に成候處、宮内殿  
頓死にて候。具足櫃によりかゝり候て死去の由に御座候。  
其時分は色々浮説申候。死去の仔細も有之候哉。實に病氣

にて頓死にて候哉。是にて事靜り沙汰なしに成申候。其時  
又五郎申候は、此度の御厚恩生々世々難忘存候。此御恩報じ  
可申様も無之候。責ての儀に此上は最早御暇被下候へ。外  
へ出候て有之候が責ての御恩報じ申にて御座候。其仔細は  
三拾五萬石を敵に仕儀に候得ば、終にうたれ不申と申儀は  
無之候。御いきの下にてうたれ候ては、是迄一命にかへら  
れ御かくまひ被下候處を無にいたし申候。其上御一人のみ  
に非ず、御旗本中御味方被成候處に、それをもむなく致  
し申にて候。最早是迄に御座候間、御家を立退申由にて、達  
て斷申入候て、行方しらず罷出申候。相模守殿方にては、  
畢竟又五郎故に宮内殿も鬱憤にて頓死に候得ば、主の敵と  
家老以下存罷在候故、手わけいたし弓鏑等用意にて、六拾六  
ヶ國を尋させ申候。終に東海道庄野にてうたれ申候。草履  
取夜中わらづ買に、庄野の宿にて人家へ立寄候得ば、亭主夜  
迄あるき候哉と尋申候處に、我等が主人は三拾五萬石取を  
相手に持候故、晝あるき申儀は不罷成、かやうに夜中あるき  
申由申候を、庄野の宿に不限宿々に人を付置候故、相模守  
殿家來承、夫よりつけ候て終に討申候。其節も五六人手に

かけ其後うたれ申候。安藤治右衛門名譽を取申も此事にて  
御座候。此時分までは武士の風俗如此に御座候。  
一、連歌師兼壽の奇聞  
連歌師兼壽事兼裁孫にて候。連歌も殊の外器用にて中興可  
仕と申候。歌を好候てひたと讀、近衛了山御目をかけられ  
候ゆゑ御批判を受申候。隨分と存候てよみ候ても、是は連歌  
師の歌にて候とて御感不被成候故、とかく自分に御目にか  
け候へば連歌師の歌と被仰候間、外より見せ可申と存候  
て、或公家衆を頼み候て、兼壽よみ申儀不被仰、公家中の  
歌とて了山に御目につかれ候様にと頼み申候。其歌に、  
是も又入相のかねに散やせん外山の櫻色づきにけり  
了山御覽候て、其まゝ是は連歌師の歌にて候。兼壽めにては  
無之哉と被仰候故、其段兼壽承、我を折申候。重て了山へ  
罷越此儀申出し、右の歌誰の歌に候哉、さりとはよみ被  
申たる儀と存候處に、連歌師の歌と被仰候事一圓合點不參  
候。どこが連歌風に候哉、被仰聞可被下候と申候處に、了  
山被仰候は、扱は汝がよみたるにて候。有様に申候へ。左候  
はゞ被仰聞候はんと被仰候故、有様に申上候處、了山被仰候